

令和 7 年度「学術交流協定校との国際シンポジウム開催支援事業」報告書  
 “Grant for International Symposium with Academic Partner University in FY 2024” Report Form

2025 年 07 月 28 日

実施責任者 職・氏名 Responsible faculty member(Title, Name)	准教授 磯野 拓也			
シンポジウム名 Symposium title	ASPIRE サステイナブル高分子に関する日仏ジョイントワークショップ 2025 ASPIRE Japan-France Joint Workshop on Sustainable Polymers 2025			
実施期間 Date, Time	2025 年 6 月 30 日～7 月 5 日			
シンポジウムの具体的な開催内容 Describe the contents of the symposium	<p>協定校であるグルノーブルアルプス大学 (UGA) および関連研究所に所属する研究者と博士課程学生 (合計 7 名) を招待し、サステイナブルな高分子材料に関する国際的な研究交流を図るために国内外の産官学からの研究者による講演会や研究討論を行った。具体的なプログラムは下記の通りである。</p> <p>6 月 30 日：レセプション@カフェ de ごはん          7 月 1 日：講演会@本学工学部、会食を兼ねた研究討論@くし路 新北海道ビル店          7 月 2 日：若手研究者・学生による研究発表@登別温泉          7 月 3～5 日：研究討論、研究室見学など@本学工学部</p>			
出席者数 Number of Participants	合計/Total 44 人/Participants			
	内訳/Details			
	人数/ Number of Participants	身分/Status	国/Country	所属機関名/University Name
	5	Research director/research fellow/post-doctoral fellow/research engineer	フランス	UGA/CERMAV-CNRS
	1	Research director	フランス	UGA/DCM-CNRS
	1	PhD candidate	フランス	UGA/CERMAV-CNRS
	1	Associate Professor	米国	Boston College
	2	教員	日本	金沢大学
	1	博士研究員	日本	東京科学大学
	3	研究員	韓国	ZEUS Oil & Chemicals
1	研究員	韓国	Korea Photonics Technology Institute	
29	教員、大学院生、学部学生、技術補佐員	日本	北海道大学	
シンポジウム開催による成果 Outcome	<p>UGA/CERMAV-CNRS のメンバーとは以前から共同研究や合同ワークショップを行っていたが、今回初めて UGA/DCM-CNRS の研究者 (Prof. Didier BOTURYN (DCM-CNRS の研究所長)) を招待した。これにより、新たな日仏の共同研究プロジェクトの可能性について議論を深めることが出来た。また、フランスだけでなく米国や韓国、国内大学からも関連研究者を招待しており、本学-UGA の国際研究連携をさらに拡大する絶好の機会となった。さらに、本シンポジウム期間中にフランス側メンバーと次回ワークショップ開催に関して議論し、本年 9 月に UGA/CERMAV-CNRS で開催することを決定した。フランス側でのワークショップには、本学サイドから教員 2 名、博士研究員 2 名、大学院生 1 名が参加する予定である。</p>			

<p>今後の共同研究に向けた展望と課題 Future prospects and issues towards research collaboration</p>	<p>UGA/CERMAV-CNRS との共同研究は現在採択されている JST 次世代のための ASPIRE プログラムで予算措置を受けながら遂行中である。進行中の共同研究テーマの進捗確認や今後の方向性を議論する意味で大変有意義であった。これに加え、今回のワークショップで新たに UGA/DCM-CNRS や Boston College との共同研究の種を発掘することが出来た。具体的には、UGA/DCM-CNRS の Prof. Didier BOTURYN とはペプチド系のバイオマテリアル、Boston College の Prof. Jia NIU とは多糖誘導体の自己組織化に関して双方の関心が合致するテーマについて議論を深め、より具体的な研究の進め方についてオンラインや face-to-face で議論を進めることで一致した。今後、実質的な共同研究を遂行するにあたっては財源の獲得が必要である。また、Boston College とは本学との協定がないため、学生交流では困難が生じると予想される。</p>
<p>その他 (本事業の要望等) Comment for the grant</p>	<p>公募開始時期をなるべく早めていただけると、予算計画を立てやすいので大変助かります。</p>



レセプションでの集合写真



講演会での集合写真



Prof. Didier BOTURYN による講演の様子